

令和6年度

第1回

くずし字初級講座



日時：2024年10月6日（日）

10：00～11：30

会場：福井県文書館 研修室

講師：橘 悠太

くずし字とは？

くずし字：字画を略して書いた文字

（『日本国語大辞典』）

**近世以前の古文
書・古典籍**



**明治時代の刊本な
ど（変体仮名）**



**書道における草
書・行書**



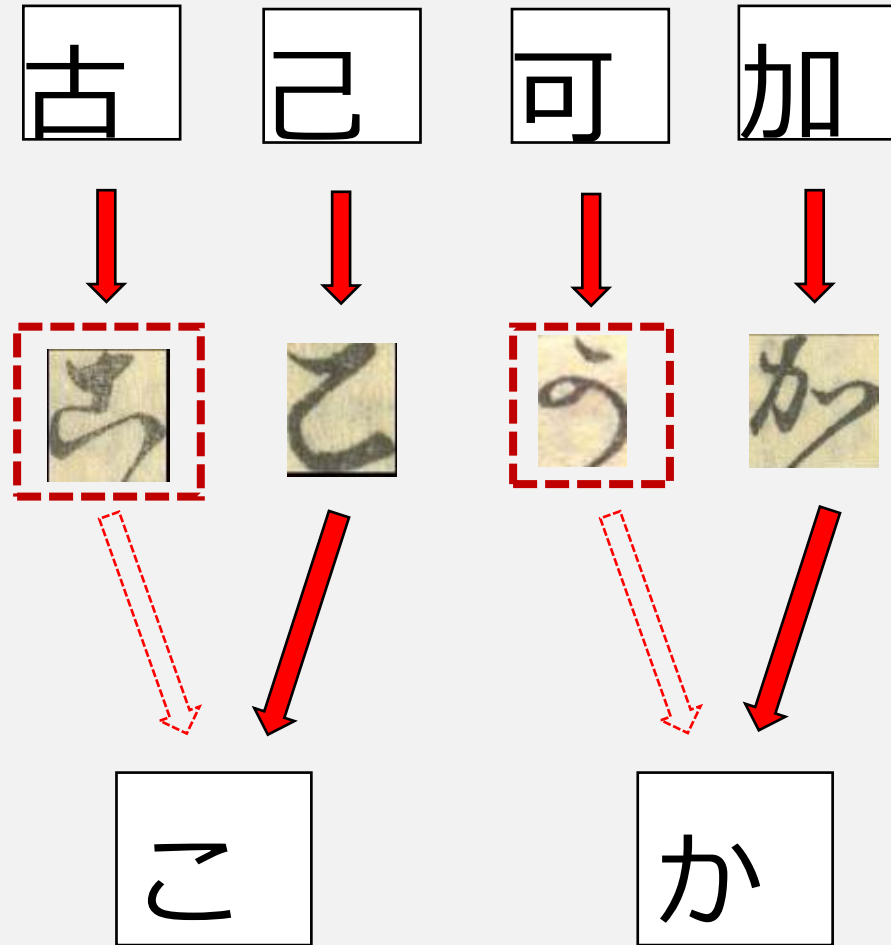
**老舗の看板や箸袋
など**



平仮名と変体仮名

現在用いられている平仮名（現用字体）とは、一九〇〇年（明治三十三）に制定された「小学校令施行規則」で採り上げられた四十八字のこと。

これら四十八字以外、現在は用いられなくなった平仮名のことを「**変体仮名**」という。



平安時代に漢字から派生した平仮名は、元々は一つの音に対して複数の字体があった。

くずし字の学びを発展させる1

**くずし字の字形を学んだだけでは
歴史資料は読めない。**

なぜか？

→昔の人の文章であるから。

くずし字の学びを発展させる2

昔の人々が記した文章の特徴①

→現代日本語とは意味や使い方が異なる語句や、使わなくなった語句が多く含まれている。

くずし字の学びを発展させる3

歴史資料で用いられる語句の例

例1：天気（てんき）

→天皇の意向

例2：比興（ひきょう）

→おもしろいこと。興あること。

→いやしいこと。つまらないこと。

くずし字の学びを発展させる4

昔の人々が記した文章の特徴②

→日本独自の漢語文体である変体漢文（候文）で記される。現代日本語のように文頭から文末まで順を追って読めない文章が多い。

くずし字の学びを発展させる5

昔の人々が記した文章の特徴③

→旧字・異体字・合字などが使用されている。



圓（円）の旧字



「より」の合字

くずし字の学びを発展させる6

昔の人々が記した文章の特徴④

→書札礼（しょさつれい）に則って書かれている。

書札礼・・・書状の形式・用語などを規定した決まり事。

例：便箋書に付ける一枚

本講座のねらい

くずし字を解読するために何が必要か？

→くずし字の字形を読み解くことに加え、
歴史資料上で用いられている日本語の様
式や単語・文法など様々な知識も必要と
なってくる。

⇒くずし字を解読するために必要な基礎
知識を学んでいきましょう！

古文書について1-1

・ 古文書（こもんじょ）とは？

→特定の相手に意志を伝えるために作成された書類のうち、江戸時代以前に作成されたものを指す。日記や編纂物など相手が定まっていない記録類とは区別される。

・ 古文書はなぜ残る？

→基本的には、先人達による残そうとする意志と行動の結果

古文書について1-2

・残される古文書

→保存対象にとって重要な書類、貴重な書類であれば残そうとする。

・重要な書類

→土地や身分などの権利を保証する公的文書

現在の権利保障・・・国や自治体

昔の権利保障・・・権力者（朝廷・幕府・藩主等）

本講座で扱う古文書

・ 安堵状や知行充行状

→前近代の日本において、所領安堵や社寺領寄進などを確認あるいは承認した公文書。

・ 越前国での場合、誰が承認したのか？

→中世では斯波・朝倉氏など。近世では福井藩主松平氏など。

大谷寺の寺領安堵状

丹生郡越知山 大権現社領を因り
大谷村并老原村より其高百石如
先規全可有收納曾者歲月之
注書亦無怠慢下抽國家安泰に
悃祈者也仍此件

延寶三年十二月日昌親

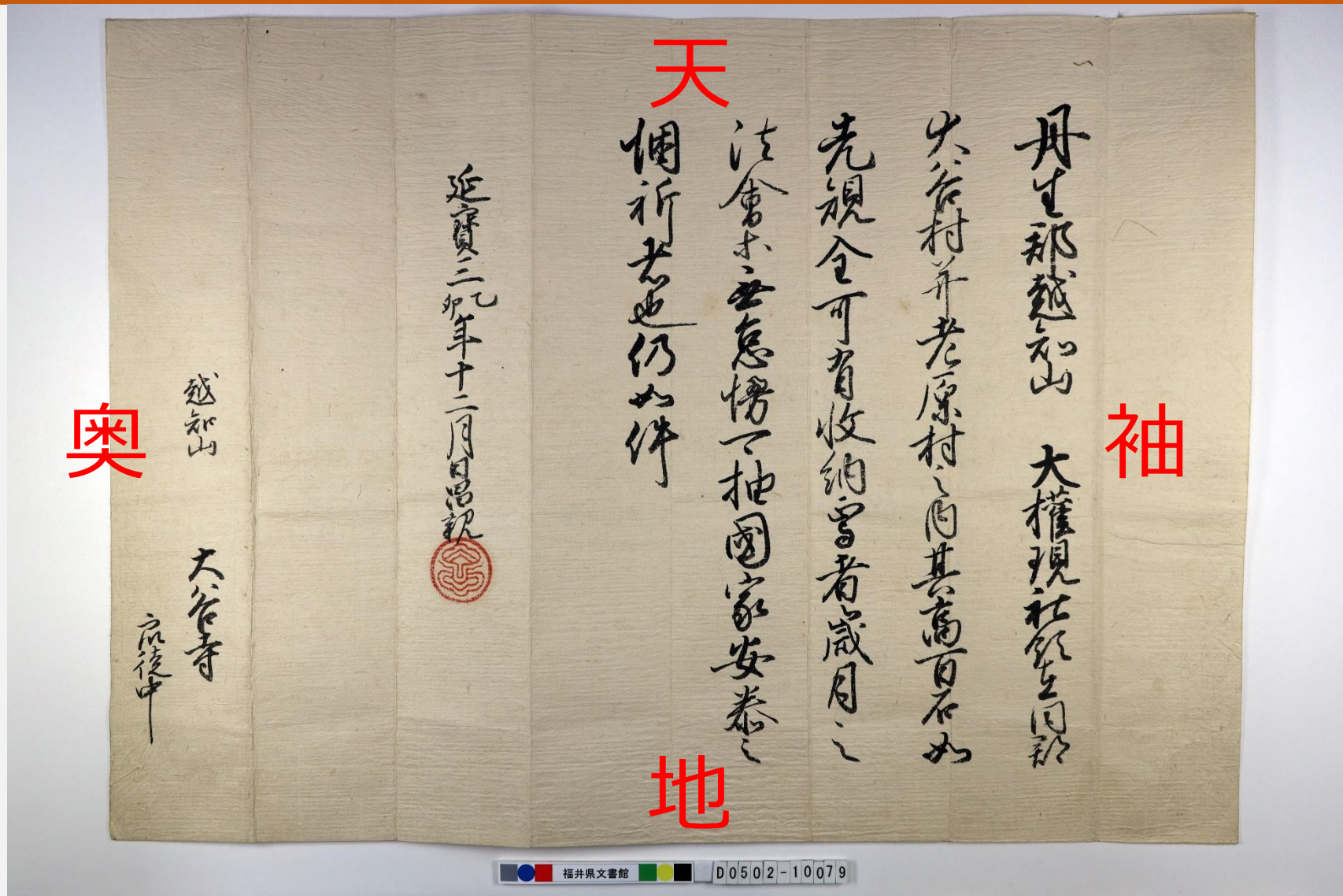


越知山

大谷寺

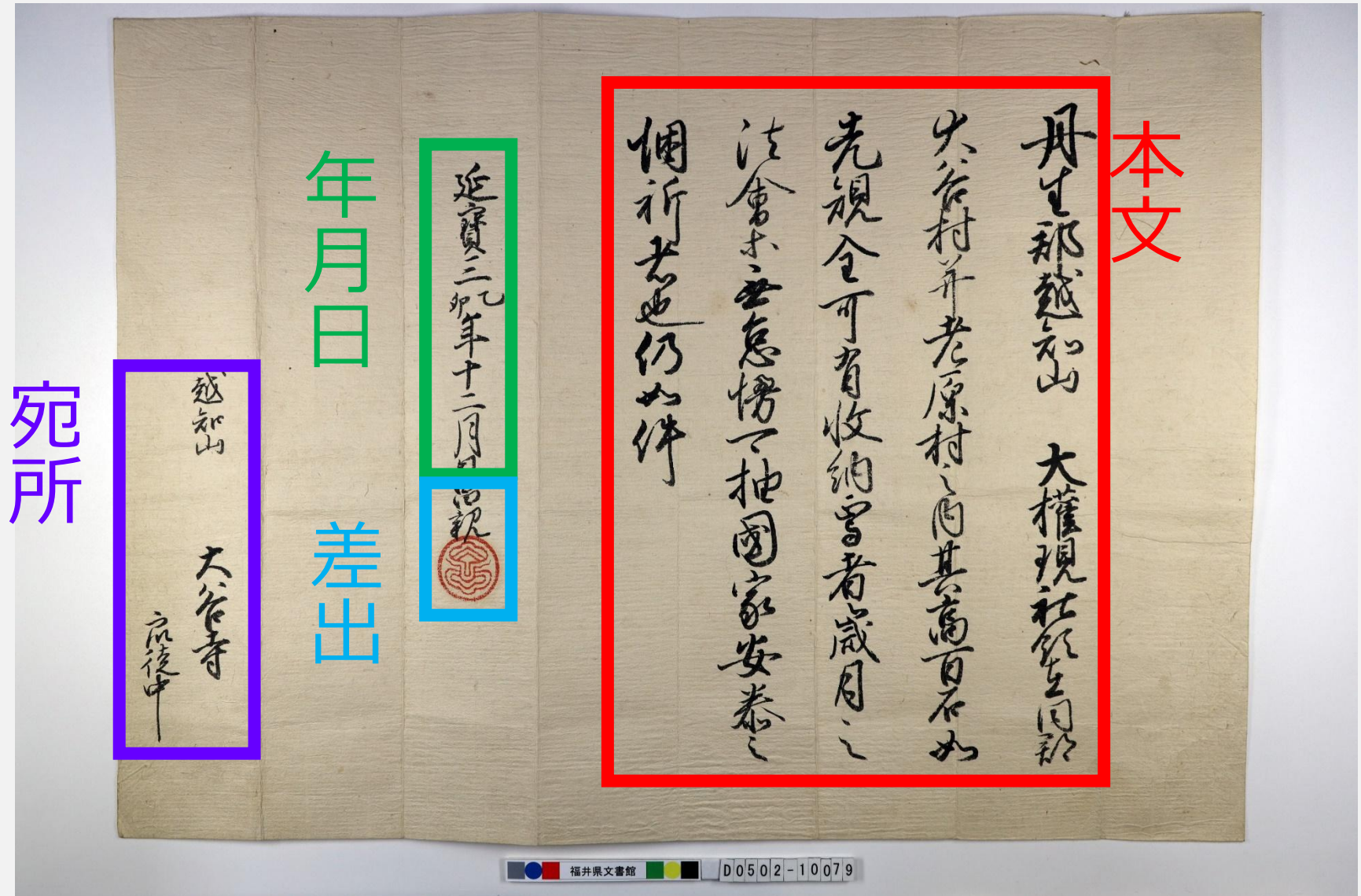
元徳中

古文書の部位名称



延宝三年十二月日松平昌親安堵状（越知神社文書） D0502-10079

古文書の構成1-1



延宝三年十二月日松平昌親安堵状（越知神社文書） D0502-10079

古文書の構成1-2

赤線で囲んでいる部分

用件を記している本文。古代中国で用いられていた漢文表現とは違い、前近代の日本では独特の漢文表現（変体漢文・和漢文・候文ともいわれる）で書かれる。

緑線で囲んでいる部分

一文字下げて書かれているのが年月日。つまり日付。江戸時代前期の元号である「延宝」が使用されており、「延宝三年（一六七五）十二月日」と書かれている。

青線で囲んでいる部分

日付の下にはこの文書の差出人の署名がある。本文書では差出人の名「昌親」と朱印が押されている。

紫線で囲んでいる部分

最後に書かれているのがこの文書の宛先。本文書の宛先には大谷寺（福井県越前町）と記されている。

本文の読解1-1

丹生郡越知山 大権現社領

丹生郡越知山 大権現社領

・丹生郡（にゅうぐん）
越前国西部の郡。現在の福井県越前町。

・越知山（おちさん）
泰澄が修行したとされる霊峰。そこには三所権現を祀った神社があり、明治の神仏分離まで越知山三所権現と称していた。また、別当寺（神社の管理経営をおこなった寺）は大谷寺がつとめていた。

・闕字（けつじ）
文章中に、神や高貴な人の称号などが登場した時、敬意を表して、その上を一字分ほど空白を設ける書式。

・社領（しやりょう）
神社の領地。

本文の読解1-2

大谷村 并 老原村之内 其高百石



在同郡



- ・同郡

丹生郡のこと。

- ・在（ある）

存在する。「有」を使用すること。

- ・并（ならびに）

追加・並列をあらわす副詞。くく。

- ・内（うち）

直前に「之（の）」をともない前の文節に接続。

- ・高（たか）

越知山三所権現の知行高のこと（所領地の石高）。「百石」と記してある。

本文の読解1－3

先規全可有収納焉者

如

先規 全可有収納焉者

・如（ごとく）

くの通りだ。

・先規（せんき）

以前からのしきたり。前例。先例。

・全（まったく）

すべて。完全に。落度なく。

・可（べし）

「くするのがよい。くせよ。（当然・

命令）」などのの意味を持つ助動詞。

・収納（しゅうのう）

領主が領民から年貢などを取りたてて

納め入れること。

・焉者（おわらば）

「焉」は「おわんぬ」と読み、過去や完

了の「くした。」という意味となる。漢

字は異なるが、「了」「畢」も同じ読み

と意味。「者」は「は」と読む接続助詞で

「くならば」という仮定条件の意味。

本文の読解1－4

歲月

歲月之

法會等無怠慢可抽國家安泰之

惴祈者也仍如件

惴祈者也仍如件

- ・歲月（さいげつ）…としつき。年月。
- ・法會（ほうえ）…仏事など
- ・怠慢（たいまん）…おこたること。
- ・抽（ぬきんず）
「他より秀でる」の意味となる動詞。
- ・惴祈（こんき）
念入りな祈禱のこと。「懇祈」とも。
- ・仍（よって）
「したがって・そこで」の意味となる
接続語。

日付・差出・宛所の読解

延宝三卯^乙年十二月日昌親（朱印）

延寶三卯^乙年十二月日昌親


越知山 大谷寺
衆徒中

越知山

大谷寺

衆徒中

・延宝（えんぽう）…江戸時代前期の元号。延宝三年は一六七五年。

・乙卯（きのとう・おつぼう）

十干（じっかん）と十二支を組み合わせて六十通りにし、年月日などを示した。

・昌親（まさちか）

福井藩五代藩主松平昌親。延宝二年に藩主となる。後に「吉品」（よしのり）に改名。

・衆徒（しゅと）

僧侶の集団階級。大谷寺では衆徒集団と山伏集団の組織が寺内にあった。

全文の翻刻

丹生郡越知山 大権現社領、在同郡
大谷村并老原村之内、其高百石如
先規全可有收納焉者、歲月之
法会等無怠慢可抽国家安泰之
悩祈者也、仍如件、

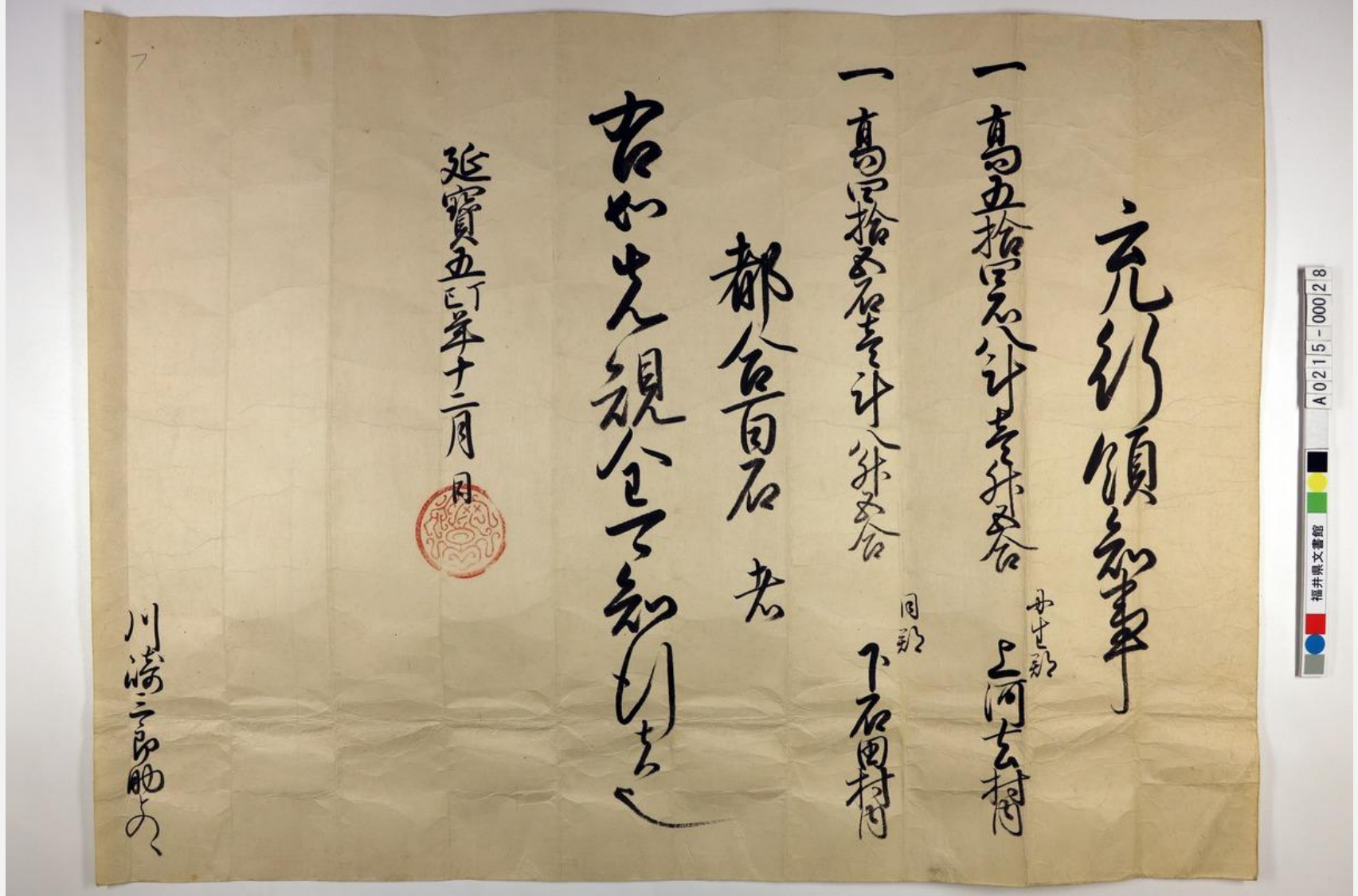
延宝三_{卯乙}年十二月日昌親（朱印）

越知山

大谷寺

衆徒中

知行充行状



延寶五年十二月日 松平綱昌知行宛行状（河崎家文書）A0215-00028

本文の読解2-1

充行領知事

充行領知事

一高五拾四石八斗壹升五合
上河去村内

一、高五拾四石八斗壹升五合
上河去村内

丹生郡

- ・充行（あておこない・あてがい）
土地や所職などを給与すること。

- ・領知（りょうち）

領有して支配すること。また、その土地。

- ・一書（ひとつがき）

箇条書きの冒頭に、「一、」と記す書式。

- ・高（たか）

年貢または見積穫稻の多少によつて土地の価値を示す名称。

- ・石（こく）

容積の単位。斗（と）の十倍、升（しょう）の百倍。

本文の読解2-2

一、高四拾五石壹斗八升五合

同郡

下石田村

一、高四拾五石壹斗八升五合

同郡

下石田村内

都合百石者

都合 百石 者

右如先規全可知行者也

右如 先規 全可 知行者也

・都合（つごう）

合わせること。合計すること。

・者（てへり）

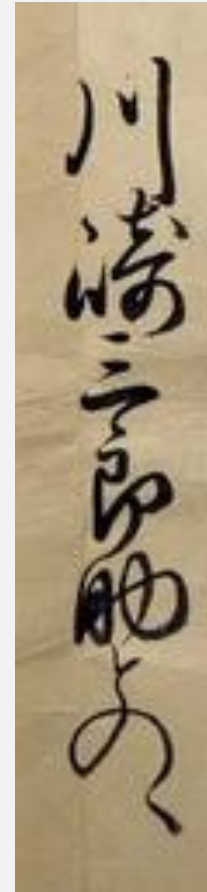
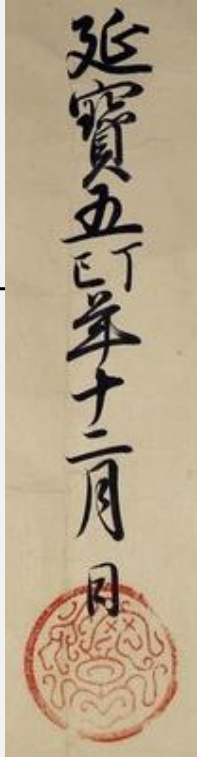
「と言へり」が短縮された形。文末について引用を示す。「〜」ということだ。〜とのことだ。」という意味になる。

・知行（ちぎよう）

領地や財産を直接支配すること。

日付・差出・宛所の読解

延宝五^{丁巳}年十二月日（朱印）



川崎 三郎助とのへ

・延宝（えんぽう）…江戸時代前期の元号。延宝五年は一六七七年。

・丁巳（ひのとみ・ていし）
延宝五年の干支。

・朱印（しゅいん）
公文書に押す朱色の印判。この印は福井藩六代藩主松平綱昌のもの。延宝四年、昌親から家督を譲られ藩主となる。

・とのへ

「殿へ」の仮名書き。宛先に付ける敬称表現のひとつ。

充行領知事

一、高五拾四石八斗壹升五合 丹生郡 上河去村内

一、高四拾五石壹斗八升五合 同郡 下石田村内

都合百石 者

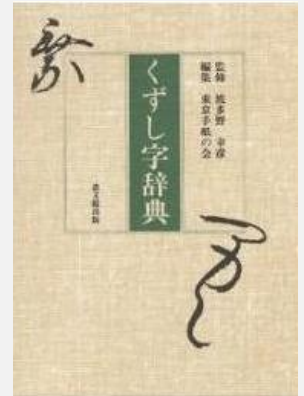
右、如先規全可知行者也、

延宝五_{丁巳}年十二月日（朱印）

くずし字事典

【書籍】

- ・ 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1993年）
- ・ 児玉幸多編『くずし字解説辞典 普及版』（東京堂出版、1993年）
- ・ 東京手紙の会編『くずし字辞典』（思文閣出版、2000年）



【インターネット】

- ・ 東京大学史料編纂所 電子くずし字字典データベース

<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w34/search/character>

→くずし字の字形を検索できる。

くずし字学習アプリ

アプリで学ぶくずし字

くずし字学習支援アプリ

KuLA

クーラ

ダウンロードはこちらから！



App Store
からダウンロード



Google Play
で手に入れよう

ブラウザ版は
こちら

最新バージョンのAndroidでKuLAが動作しない報告を頂いています。申し訳ありません、対応まで少々お待ちください。

スマホで過去と繋がろう！

無料アプリで今日からはじめる、らくらく「くずし字」学習



くずし字解読アプリ

【AIくずし字認識アプリ miwo（みを）】

→くずし字資料をカメラで写真撮影し、認識ボタンを押すだけで、AIがくずし字を現代文字に変換してくれます。アプリの利用は無料です。



<http://codh.rois.ac.jp/miwo/>

【古文書解読アプリ 古文書カメラふみのほ】

→「古文書カメラ」は、スマートフォンで撮影したくずし字資料を、高精度のAI-OCR技術によりその場で手軽に解読できるアプリです。



<https://camera.fuminoha.jp/>

入門用としておすすめの書籍等

【書籍】

- ・ 荻米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）
- ・ 山本明『よくわかる「くずし字」見分け方のポイント』（メイツ出版、2019年）
- ・ 小林正博『これなら読める！くずし字・古文書入門』（潮新書、2018年）
- ・ 高木侃『三くだり半からはじめる古文書入門』（柏書房、2011年）
- ・ 吉田豊『古文書をはじめる前の準備講座』（柏書房、2008年）

【インターネット】

- ・ 福井県文書館HP トップページ下のメニュー「くずし字講座WEB版テキスト」

<https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/category/kouza/26716.html>

◆過去の入門講座や初級講座のテキストを公開しています。

- ・ 静岡県立中央図書館HP 「くずし字解説講座 テキスト一覧（古文書解説）」

<https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/history/kuzushi.html>

◆古文書の解説方法についてレベル順に50のテーマで解説しています。

本講座で使用した史料

【読解用教材として】

- ・ 越知神社文書 D0502-10079
- ・ 河崎家文書 A0215-00026 ・ A0215-00028

デジタルアーカイブ福井（<https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/>）で
検索・閲覧可能 ※ダウンロードや印刷もできます。

【参考画像として】

- ・ 史的文字データベース連携検索システム（国文学研究資料館、東大史料編纂所）

<https://mojiportal.nabunken.go.jp/>